

2019年8月4日 市民ひろば(札幌) in 第43回日本遺伝カウンセリング学会

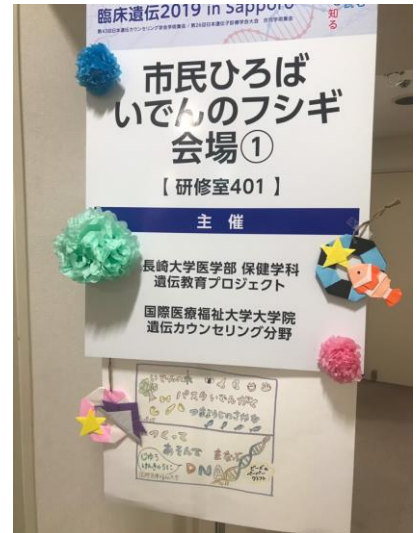
第43回日本遺伝カウンセリング学会が8月1～4日に札幌市で開催されました。

大会長である札幌医科大学 櫻井晃洋先生の市民の皆様、特に子ども達と一緒に遺伝学を身近に感じてほしいとの熱意により、市民ひろばが企画され、300名近いお子さんと保護者の皆さんが参加されました。学習ためのブースは9大学より出展、長崎大学医学部保健学科遺伝教育プロジェクトも「遺伝の木」、「 pasta遺伝学」、「つまようじの魚」の3つのプログラムを実施しました。

「遺伝の木」は、大会長 櫻井先生のご希望で出展することとなりました。使用する3つの特徴は“顔にくっついてる耳たぶ”、“二重まぶた”、“ヒッチハイカーの指”は櫻井先生に選んで頂き、札幌のみなさんの特徴をみました。

親子で楽しく特徴を確認した後、葉っぱを遺伝の木に貼ってもらいました。小さいお子さんから大人まで、楽しく参加してもらいました。

「臨床遺伝2019」は「いでん」について知る会です
無料
 親子・友達と一緒に小学生以下は保護者同伴
臨床遺伝2019 in Sapporo
市民ひろば
いでんのフシギ
 「いでん」について知ってもらう
 体験・実験コーナーをたくさん用意しています
 夏休みの自由研究にも役立つ内容も盛りだくさん
 @siminhiroba くわいはtwitterで紹介しています
日時
2019年8月4日(日)
11:00 - 15:00
 (一部に10:00-11:30開催のプログラムがあります)
会場
札幌市教育文化会館 4階
札幌市中央区北1条西13丁目
参加無料・申込不要
 (一部に事前申込が必要なプログラムがあります)
 日時
 2019年8月4日(日)
 11:00 - 15:00
 (一部に10:00-11:30開催のプログラムがあります)
 会場
 札幌市教育文化会館 4階
 札幌市中央区北1条西13丁目
 参加無料・申込不要
 (一部に事前申込が必要なプログラムがあります)
 主催:「臨床遺伝2019 in 札幌」学会事務局 後援:札幌市教育委員会
 お問い合わせ先:日本コンファレンスサービス株式会社 北海道支社 TEL: 011-218-2074 FAX: 011-218-2075



札幌でも、どの枝にも葉がついた、とても素敵な遺伝の木ができました。

どの枝についた葉っぱがすごい、この枝はダメということはありません。どの枝についた葉っぱも、大きな木になるためにはとても大切な葉っぱです。このように多様性があるので、遺伝の木はどの枝にも葉っぱが付き、すてきな木になります。

ヒトも同様にいろんな特徴をもった人が集まることで、豊かに助け合って生きていくことができます。



パスタ遺伝学は、親から子、孫へ遺伝子がどのように伝わっていくか(伝達)を遺伝子に見立てた色つきのパスタで実験します。小さいお子さんには少し難しかったかもしれませんが、頑張って取り組んでくれました。

おじいさん・おばあさんから、おとうさん・おかあさんからどのように遺伝子を受け継ぐか、おとうさん・おかあさんから4人の子どもが生まれた時、同じ遺伝子のくみあわせをもつ子どもが生まれるかを確認しました。隣で一緒に実験したお友達とも比べてみました。

今回は4種類のパスタ遺伝子を使ったため、同じ遺伝子の組み合わせを持った子どもができたこともありました。しかし、ヒトは22000個の遺伝子を持っています。実際に比べることはできませんが、「22000個のパスタで子どもを作ってみたらどうかな？」と問いかけると「同じ子どもは生まれないね」と答えてくれました。



また、4人きょうだいのお兄ちゃんがパスタ遺伝学にチャレンジしてくれました。プログラムは「子ども1」「子ども2」ということで進めますが、それぞれに、きょうだいの名前をつけて実験してくれました。同じ色と形の組み合わせのきょうだいはできませんでした。「どの色の組み合わせも素敵でしょう？」と声をかけると、「僕の色が一番好き」と笑顔で答えてくれました。

つまよじの魚は、集団に対する環境の影響を学習するプログラムです。少し難しいプログラムなので、パスタ遺伝学に参加してくれた人のうち、希望する方だけに学習してもらいました。

お子さんや保護者の方だけでなく、学会に参加された先生方、研究者の方々からも多くの関心を持っていただき、私達も楽しく、そして学びの多い市民ひろばとなりました。

これからも、子ども達と一緒に楽しく学習するプログラムの開発とたくさんの皆さんと一緒に学ぶ機会を作っていくようにしたいと思います。

2019年8月6日 文責 森藤香奈子